

## 外国人生徒等の日本語支援と外部連携

北海道函館工業高等学校 定時制課程 学級数 4 (校長 坂野 裕悦)

### □ 実践の概要

渡島地区では日本語指導を必要とする生徒が年々増加しており、今年度本校に外国籍の生徒が入学した。現在、日本語学習のための学校設定科目を設定し、帰国・外国人生徒等教育推進講師による日本語指導と北海道教育大学函館校の学生ボランティアによる入り込み指導等を通して、学びの支援を行っている。

### 1 実践の目的

外国人生徒等のための日本語指導を教育課程に位置付け、学校設定科目による指導と課業前の指導、並びに一部の通常授業への入り込み指導を実施し、ひらがな、カタカナ、漢字の読み書きと単語の意味を理解させ、日本語での授業に参加できるようにする。また、日本での生活に必要な言葉や習慣を身に付けさせ、4年間で高等学校の定時制課程を卒業することにより、実社会へつなげる。

### 2 実践内容

#### (1) 実施計画

令和5年度における外国人生徒の教科・科目の履修計画（1年次 21単位）

- ・必履修科目 現代の国語（2単位）、公共（2単位）、数学Ⅰ（2単位）、化学基礎（2単位）、体育（1単位）、保健（1単位）、英語コミュニケーションⅠ（2単位）、工業情報数理（情報Ⅰ代替）（2単位）
- ・専門科目 工業技術基礎（4単位）
- ・学校設定科目 日本語基礎（1単位）
- ・「特別の教育課程」による日本語指導（2単位）※課業前に実施

#### (2) 取組の具体

本校では、「高等学校等における帰国・外国人生徒等教育推進講師配置事業」を活用しており、函館日本語教育研究会（JTS）と連携し、高等学校教諭免許状を有した日本語指導に関する知識や経験のある外部講師が中心となり、学校設定科目「日本語基礎」は、工業科目「機械工作」との選択授業として週1時間、「特別の教育課程」による日本語指導は、課業前に週2時間行われている。また、北海道教育大学函館校地域協働推進センター及び国際地域学科との連携で教職課程の現役大学生がアシスタントティーチャーのボランティアとして授業に入り込み、日本語の支援を行っている。入り込み指導は、科目「現代の国語」、「公共」及び「保健」で実施している。

#### (3) 取組後の点検・評価、工夫改善

支援をいただいている地域の日本語講師、大学教授及び大学生は、基本的に支援する時間の前後のわずかな時間しか職員室での情報共有ができない。そこで、Google Classroomに専用のルームを立ち上げ、支援に係る全員をメンバーに登録し、授業内容、進捗状況と本人の理解（個人情報以外）について相談や事後報告レポートを閲覧できる状態にしている。そのため、支援に係わる総勢20名以上の方々が集合することや会議を設定しなくても、支援に大きな影響や学校との意思疎通が図ることができない等の問題は発生していない。



【取り出し指導】



【大学生の入り込み指導】



【部活動】



#### (4) 改善後の取組

授業内容の改善や要望については、Google Classroomを活用せず、管理職とメールでやりとりをし、管理職から担当教諭に工夫や改善を依頼することにより、定期考査等の実施に向けての配慮事項の確認や「指導と評価の一体化」を踏まえた学習評価等が適切に行われるように努めている。

### 3 実践のポイント

- ・地域で日本語の支援が必要となる生徒が入学を希望した段階で、高等学校は日本語指導を行う学校設定教科・科目の開設を前提とした教員配置、非常勤講師等の時間の配当、並びに外部支援員の配置の検討を速やかに開始することが重要である。
- ・入学から間もない生徒や、日本語が十分理解できない保護者との対話のための通訳手段及び翻訳機器等の配置について検討し、地域連携や道教委等の事業を組み合わせた外国人生徒への日本語支援を行う必要がある。